

令和7年度版 中学校『国語』

移行資料

■資料1

文法・言葉・漢字の指導に関する移行資料……………3

■資料2

情報の扱い方の指導に関する留意点……………11

■資料3

古典指導に関する留意点……………12

■資料4

漢字配当に関する移行資料……………12

光村図書

資料1 文法・言葉・漢字の指導に関する移行資料

資料作成のねらい

1. 本資料は、令和7年度から新たに光村図書『国語』が使用される学校において、文法・言葉・漢字の指導が円滑に移行できるよう作成したものです。
2. 本資料で取り上げた主な内容は、次の通りです。
 - ①これまでの教科書と光村図書『国語』の、文法・言葉・漢字の内容と系統。
 - ②第2学年から、あるいは第3学年から、それぞれ新たに光村図書『国語』をお使いになる場合に、文法・言葉・漢字の指導において留意すべき点。
3. 本資料の作成にあたっては、次のことを旨としています。
 - ①これまでの教科書の記述が、同学年の光村図書『国語』よりも詳細で、かつ用語の相違がなければ取り上げない。逆に、光村図書『国語』の文法・言葉・漢字の指導において、これまでの教科書の記述以上のものを扱っている場合には取り上げる。
 - ②主として、教科書本文（光村図書『国語』では〔文法への扉〕〔文法〕、〔言葉〕、〔漢字〕）の記述のみを対象する。指導書（解説書）などの記述については触れない。
 - ③教科書記述の背景にある文法上の学説、よりどころとなる文法上の立場についての解説はしない。また、編集方針の相違などについても触れない。

資料 1-❶ 令和 7 年度版光村図書・令和 3 年度版教育出版
文法・言葉・漢字の内容と系統

移行に際して留意が必要な事項を、 で示しました。「資料 1-❷ 光村 [文法] [言葉] [漢字] を指導する際の留意点」をご参照ください。教科書の本文以外（脚注など）で解説された事項には、＊を付しました。

文法		
	令和 7 年度版 光村図書	令和 3 年度版 教育出版
1 年	1 言葉の単位 ①文法とは ②言葉の単位 ・文章・談話、段落、文、文節、単語 ＊複合語 2 文の組み立て ①文節どうしの関係 ・主・述の関係―主語、述語、体言、用言 ・修飾・被修飾の関係―修飾語（連用修飾語、連体修飾語） ・接続の関係―接続語 ・独立の関係―独立語 ②連文節 ・並立の関係 ・補助の関係 ③文の成分 ・主語、述語、修飾語、接続語、独立語 ・主部、述部、修飾部、接続部、独立部 ④文の組み立て 3 単語の分類 ①単語の分類 ・自立語・付属語 ・活用の有無 ②品詞 ・動詞、形容詞、形容動詞、名詞、副詞、連体詞、接続詞、感動詞、助動詞、助詞 ・品詞分類表 ③体言と用言 ・体言、用言	1 言葉の単位 ・文章、段落、文、文節、単語（語） ＊談話 ＊複合語 2 文の成分 ・文の成分―主語、述語、修飾語、接続語、独立語、連文節、主部、述部 ・主語・述語―主・述の関係 ・修飾語―修飾・被修飾の関係、連体修飾語、連用修飾語 ・接続語―接続の関係 ・独立語 ・文の成分の組み立て ・並立の関係―並立語 ・補助の関係―補助の文節 3 単語のいろいろ ・自立語と付属語 ・活用のある単語と活用のない単語 ・活用のない自立語一名詞（体言）、連体詞、副詞、接続詞、感動詞 ・活用のある自立語（用言）―動詞、形容詞、形容動詞 ・活用のない付属語―助詞 ・活用のある付属語―助動詞 ・品詞―品詞分類表 ＊接頭語、接尾語 ＊品詞の転成

	令和 7 年度版 光村図書	令和 3 年度版 教育出版
2 年	1 自立語 ①活用する自立語 ・動詞―他動詞、自動詞、補助動詞 ・形容詞―補助形容詞 ・形容動詞 ②活用しない自立語 ・名詞―普通名詞、代名詞、固有名詞、数詞、形式名詞 ・副詞―状態の副詞、程度の副詞、呼応の副詞 ・連体詞 ・接続詞―順接、逆接、並列・累加、対比・選択、説明・補足、転換 ・感動詞―応答、呼びかけ、感動、挨拶 2 用言の活用 ①活用 ・語幹、活用語尾 ・活用形―未然形、連用形、終止形、連体形、假定形、命令形 ②用言の活用 ・動詞の活用―五段活用、上一段活用、下一段活用、カ行変格活用、サ行変格活用 ＊音便（動詞）―イ音便、促音便、撥音便 ＊可能動詞の活用 ・形容詞・形容動詞の活用 ＊音便（形容詞）―ウ音便 3 付属語 ①付属語 ②付属語の種類 ・助動詞 ・助詞―格助詞、副助詞、接続助詞、終助詞	1 活用のない自立語 ・名詞―普通名詞、固有名詞、代名詞、数詞、形式名詞 ・連体詞 ・副詞―状態の副詞、程度の副詞、叙述の副詞 ＊指示語（こそあど言葉）―近称、中称、遠称、不定称 ・接続詞―順接、逆接、累加・並立、対比・選択、転換、要約・言い換え・補足 ・感動詞―感動、呼びかけ、応答、挨拶 2 活用のある自立語 ・動詞 ・活用形・語幹と活用語尾―未然形、連用形、終止形、連体形、假定形、命令形 ・活用の種類（動詞）―五段活用、上一段活用、下一段活用、カ行変格活用、サ行変格活用 ・音便（動詞）―音便形、イ音便、促音便、撥音便 ・いろいろな動詞―可能動詞、自動詞、他動詞 ・形容詞 ・形容動詞 ・補助用言―補助動詞、補助形容詞 3 付属語のいろいろ ・助詞―格助詞、接続助詞、副助詞、終助詞 ・助動詞
3 年	1 文法を生かす ①文法を生かして伝え合う ・文法の知識を生かした推敲のしかた（文節・連文節の対応、意味のまとまり、呼応の副詞） ②文法を生かして読み味わう ・助詞などに着目した文学作品の読み味わい方 2 文法のまとめ ・中学校で学習した文法の練習問題	1 助詞のはたらき ・既習の助詞についての意味や役割の違い ・助詞の分類―格助詞、接続助詞、副助詞、終助詞 2 助動詞のはたらき ・既習の助動詞についての意味や役割の違い 3 文法的に考える ・「は」のはたらき

言葉		
	令和7年度版 光村図書	令和3年度版 教育出版
1年	1 音声の仕組みや働き ・母音、子音 ・音の高さ・強さ—アクセント、イントネーション、強調 2 指示する語句と接続する語句 ・指示する語句（こそあど言葉） ・接続する語句—順接、逆接、並列・累加、対比・選択、説明・補足、転換 3 さまざまな表現技法 ・比喩（たとえ）—直喩、隠喩、擬人法 ・反復 ・倒置 ・体言止め ・省略 ・対句 4 方言と共通語 ・方言 ・共通語 ＊消滅危機言語	1 日本語の音声 ・子音、母音、音節、促音、撥音、長音 ・五十音図—清音、濁音、半濁音、拗音 ・アクセント ・イントネーションと伝え方の工夫 2 日本語の文字 ・漢字仮名交じり文、表音文字、表意文字、表語文字 ・漢字の利用—万葉仮名 ・片仮名の成立—訓読 ・平仮名の成立—楷書、行書、草書 ・ローマ字の利用 3 方言と共通語 ・方言 ・共通語 ・方言と歴史 ・新しい方言 ・社会方言 ・方言と共通語の使い分け
2年	1 類義語・対義語・多義語 ・類義語 ・対義語 ・多義語 2 敬語 ・敬語の働き ・敬語の種類—丁寧語、尊敬語、謙譲語（丁寧語）、（美化語） ・敬語の組み合わせ 3 話し言葉と書き言葉 ・話し言葉 ・書き言葉	1 敬語（知識・理解） ・尊敬語、謙譲語（丁寧語）、丁寧語、美化語 2 話し言葉と書き言葉 ・話し言葉 ・書き言葉 3 類義語・対義語・多義語・同音語 ・類義語 ・対義語 ・多義語 ・同音語（同音異義語）、異字同訓
3年	1 相手や場に応じた言葉遣い ・相手や場に応じた言葉遣い ・相手や場に応じた表現の選び方 2 和語・漢語・外来語 ・和語（大和言葉） ・漢語 ・外来語 ・混種語 3 慣用句・ことわざ・故事成語 ・慣用句 ・ことわざ・故事成語	1 和語・漢語・外来語 ・語種 ・和語（大和言葉）—訓読み ・漢語—音読み、和製漢語 ・外来語—和製英語 ・外来語の書き表し方と意味や印象の違い ・混種語 2 相手に対する配慮と表現 ・ゆれる敬語 ・豊かなコミュニケーションのために 3 慣用句・ことわざ ・慣用句 ・ことわざ

漢字		
	令和7年度版 光村図書	令和3年度版 教育出版
1年	1 漢字の組み立てと部首 ・漢字の組み立て—へん、つくり、かんむり、あし、たれ、によ、かまえ ・漢字の部首 2 漢字の音訓 ・「音」について ・「訓」について ・複数の読み方をする熟語 3 漢字の成り立ち ・象形、指事、会意、形声 ・国字 ＊六書—象形、指事、会意、形声、転注、仮借	1 漢字の部首 ・部首—偏、旁、冠、脚、垂、構、繞 2 画数と活字の字体 ・画数 ・活字の字体 3 漢字の音と訓 ・音読み、訓読み ・国字 ・重箱読み、湯桶読み 4 熟語の構成 ・主語—述語型 ・修飾—被修飾型 ・述語—対象型 ・同類語型 ・反対語型 ・接頭語型 ・接尾語型
2年	1 熟語の構成 ・二字熟語の主な構成 ・三字熟語の主な構成 ・四字以上の熟語の主な構成 2 同じ訓・同じ音をもつ漢字 ・同じ訓をもつ漢字—同訓異字 ・同じ音をもつ漢字—同音異義語 3 送り仮名 ・活用のある語 ・名詞 ・副詞・連体詞・接続詞 ＊原則とは異なる送り仮名	1 まちがえやすい漢字 ・似た形、まちがえやすい漢字 2 漢字の成り立ち ・象形文字、指事文字、会意文字、形声文字 3 漢字の多義性 ・転注、仮借 4 同音の漢字 ・同音異字 ・同音語（同音異義語）
3年	1 熟語の読み方 ・音と音、訓と訓 ・重箱読み、湯桶読み ・特別な読み方—熟字訓 2 漢字の造語力 ・翻訳語 ・新しい語 3 漢字のまとめ ・3年間で学習したこと	1 呉音・漢音・唐音 ・呉音、漢音、唐音、慣用音 2 熟字訓 ・熟字訓 3 異字同訓 ・異字同訓 4 四字熟語 ・四字熟語

文法・言葉・漢字指導の移行にあたって

令和 7 年度版光村図書『国語』

■文法

1. [文法への扉][文法]は、文法的事項の基礎・基本を理解させることをねらいとしています。主として、1 年に文論的事項、2 年に語論的事項、3 年に文法的事項の生かし方・まとめを配列しています。
2. 教材構成は、文法に関する親しみやすい課題を設定した [文法への扉] を学習の入り口とし、巻末の [文法] で理解と確認ができるように配列しています。
3. 2 年 [文法] の冒頭に [一年生の復習] (P240 ～ 241)、3 年 [文法] の冒頭に [一、二年生の復習] (P228 ～ 229) を示しています。光村図書『国語』での学習事項の確認に活用していただけます。
4. 令和 3 年度版教育出版『伝え合う言葉』の [文法] 教材で扱われている事項が、光村図書『国語』では [言葉] で扱われていることがあります。

■言葉

1. [言葉] は、言葉に関する知識事項等の基礎・基本を理解させることをねらいとしています。
2. 令和 3 年度版教育出版『伝え合う言葉』の [言葉] 教材で扱われている事項が、光村図書『国語』では [漢字] で扱われていることがあります。

■漢字

1. [漢字] は、漢字に関する知識事項等の基礎・基本を理解させることをねらいとしています。
2. 令和 3 年度版教育出版『伝え合う言葉』の [漢字] 教材で扱われている事項が、光村図書『国語』では巻末 [学びを深める] で扱われていることがあります。

令和 3 年度版教育出版『伝え合う言葉』

■文法・言葉・漢字

1. 令和 3 年度版教育出版『伝え合う言葉』の [文法] [言葉] [漢字] 教材が取り上げている文法・言葉・漢字に関する知識事項を中心に抽出しました。
2. 『伝え合う言葉』の [文法] [言葉] [漢字] の内容・配列を概観することで、それ以外の教科書が使われている地域から異動されてきた先生も、移行指導を円滑に行えるよう配慮しました。

資料 1-②

光村 [文法] [言葉] [漢字] を指導する際の留意点

(1) 1 年（教育出版：以下K）→ 2 年（光村図書：以下M）

■文法

M 1 年 [文法 2 文の組み立て] の内容について

- Mでは、文節どうしの関係（主・述の関係等）を提示したうえで、文の成分（主語・述語等）を解説しています。Kでは、まず文の成分を挙げた後、文節どうしの関係を解説しています。解説の手順は異なりますが、各事項の内容はおおむね共通しています。
- Kでは、「並立の関係」にある文節を「並立語」、「補助の関係」において実質的な意味を補助する文節を「補助の文節」としています。Mではこれらの用語は使っていません。
- Mでは、「独立語」についても、「独立の関係」を立てて解説していますが、Kでは「独立の関係」は立てていません。

以上の学習内容については、M 1 年の P246 ～ 250 をご参照ください。また、2 年 [文法への扉 1] (P31) の学習時に、[一年生の復習] (P240 ～ 241) を合わせてご指導いただき、その中で触れていただくなどのご配慮をお願いいたします。

■言葉

M 1 年 [言葉 2 指示する語句と接続する語句] の内容について

- 「指示する語句（こそあど言葉）」は、Mでは 1 年 [言葉] で学習し、Kでは 2 年 [文法] で学習します。
- Kでは、「指示する語句（こそあど言葉）」を「指示語」とし、「近称」「中称」「遠称」「不定称」などの用語を使って説明しています。Mでは、これらの用語は使っていません。
- Mでは、「接続する語句」として、「要するに」「以上のことから」など、接続詞以外の単語や連語を含む、接続関係を表す表現を広く扱っています。Kでは、「接続する語句」を取り上げていません。
- 「接続語」「接続の関係」については、M・Kともに 1 年 [文法] で、また、「接続詞」については、M・Kともに 2 年 [文法] で学習します。
- Mでは、1 年 [言葉]、2 年 [文法] とともに、接続の種類を「順接」「逆接」「並列・累加」「対比・選択」「説明・補足」「転換」に分類しています。Kでは、「順接」「逆接」などの用語は 2 年 [文法] の「接続詞」の解説で取り上げています。

以上の学習内容については、M 1 年の P58 ～ 60 をご参照いただき、適宜ご指導ください。

M 1 年 [言葉 3 さまざまな表現技法] の内容について

- Mでは、1 年 [言葉] で「比喩（たとえ）」「反復」「倒置」「体言止め」「省略」「対句」を取り上げています。Kでは、2 年詩教材 [虹の足] で「比喩」「象徴」「倒置法」「体言止め」「繰り返し」を取り上げています。

この学習内容については、本資料付属「補充教材」P2 ～ 4、または M 1 年 P68 ～ 70 をご利用のうえ、適宜ご指導ください。

■漢字

M 1年【漢字3 漢字の成り立ち】の内容について

- 漢字の成り立ちは、Mでは1年で学習し、Kでは2年で学習します。

この学習内容については、本資料付属「補充教材」P6～7、またはM 1年P232～233をご利用のうえ、適宜ご指導ください。

(2) 1・2年(K)→3年(M)

■文法

M 2年【文法1 自立語】の内容について

- Kでは、補助動詞と補助形容詞を合わせて「補助用言」としています。Mでは、「補助用言」という用語は取り上げていません。
- Mでは、副詞の働きの一つとして「呼応の副詞」を取り上げていますが、Kでは、これを「叙述の副詞」としています。指し示す内容は同じです。Mでは、3年【文法1 文法を生かす】でも「呼応の副詞」を取り上げています。
- 接続詞の種類について、M・Kともに6種類としています。内容的にはおおむね同じですが、呼称に違いがあります。Kの「要約・言いかえ・補足」はMの「説明・補足」に、Kの「累加・並立」はMの「並列・累加」に当たります。

M 2年【文法3 付属語】の内容について

- Kでは、2年【付属語のいろいろ】で助詞・助動詞について触れていますが、2年では簡潔な解説にとどめ、3年で詳しく扱っています。
- Mでは、助動詞「た」の働きの中で「想起」「存続」を取り上げていますが、Kでは、取り上げていません。
- Mでは、助動詞「ようだ・ようです」の働きの一つとして「例示」を取り上げていますが、Kでは取り上げていません。また、Mでは「比喩」を挙げていますが、Kでは、これを「たとえ」としています。内容はおおむね同じです。
- Mでは、助動詞「そうだ・そうです」の働きの一つとして「推定」を取り上げていますが、Kでは、取り上げていません。

この学習内容については、本資料付属「補充教材」P10～15、またはM 2年P251～256をご利用のうえ、適宜ご指導ください。3年【文法への扉1】(P31)、【一、二年生の復習】(P228～229)などとの関連指導が可能です。

■言葉

M 2年【言葉1 類義語・対義語・多義語】の内容について

- Kでは、「類義語・対義語・多義語」と「同音語（同音異義語）」「異字同訓」をいずれも2年【言葉】教材で学習しますが、Mでは、2年【言葉】教材で「類義語・対義語・多義語」を、2年【漢字】教材で「同音異義語」「同訓異字」を学習します。なお、Mでは、同じ訓をもつが、意味の異なる漢字を「同訓異字」としていますが、Kでは、これを「異字同訓」としています。指し示す内容は同じです。

■漢字

M 2年【漢字1 熟語の構成】の内容について

- Mでは、2年で「二字熟語」「三字熟語」「四字熟語」の構成について学習します。Kでは、1年で主に「二字熟語」、3年で「四字熟語」の構成について学習します。

この学習内容については、M 2年のP58～59をご参照いただき、適宜ご指導ください。3年【言葉3】(P122～123)、【漢字3】(P180～181)などとの関連指導が可能です。

M 2年【漢字2 同じ訓・同じ音をもつ漢字】の内容について

- Mでは、2年【漢字】教材で「同音異義語」「同訓異字」について学習します。Kでは、2年【言葉】教材で「同音語（同音異義語）」「異字同訓」について学習しますが、3年【漢字】教材でも、再度「異字同訓」を学習します。なお、Mでは、同じ訓をもつが、意味の異なる漢字を「同訓異字」としていますが、Kでは、これを「異字同訓」としています。指し示す内容は同じです。

この学習内容については、M 2年のP118～119をご参照いただき、適宜ご指導ください。3年【漢字3】(P180～181)などとの関連指導が可能です。

M 2年【漢字3 送り仮名】の内容について

- Mでは、送り仮名の法則について触れていますが、Kでは触れていません。なお、「送り仮名」は、「学習指導要領解説」の中では、学習事項として示されていません。

この学習内容については、M 2年のP230～231をご参照いただき、適宜ご指導ください。

資料2 情報の扱い方の指導に関する留意点

「情報の扱い方に関する事項」の指導においては、次の点にご留意ください。

1年(K)→2年(M)

■意見と根拠

M 1年【思考のレッスン1 意見と根拠】の内容について

- Mでは、「意見」と「根拠」（正確で客観的な事実）と「理由づけ」（「意見」と「根拠」がどのように結びつくかの説明）の関係を、1年で学習し、2年で深めます。Kでは、これらの関係を、それぞれ「主張・意見」「根拠（事実）」「理由づけ」とし、2年で学習します。用語や解説、図解のしかたは異なりますが、指し示す内容はおおむね同じです。

この学習内容については、本資料付属「補充教材」P8～9、またはM 1年P138～139をご利用のうえ、適宜ご指導ください。また、2年【思考のレッスン1】(P130～131)の学習時に、合わせてご指導いただくなどのご配慮をお願いいたします。

資料3 古典指導に関する留意点

古典指導においては、次の点にご留意ください。

(1) 1年(K)→2年(M)

Kの2・3年で扱う事項を、Mの1年で扱うことはありません。2年生から光村図書『国語』を使用する場合、古典指導に関する留意点は特にございません。

(2) 1・2年(K)→3年(M)

漢詩については、Mでは2年、Kでは3年で学習します。

この学習内容については、本資料付属「補充教材」P16～22、またはM2年P158～164〔漢詩の風景〕をご利用のうえ、適宜ご指導ください。3年〔夏草〕(P156～165)との関連指導が可能です。

資料4 漢字配当に関する移行資料

資料作成のねらいと解説

令和7年度版光村図書『国語』（以下M）の「新出漢字」は、これまでお使いになっていた教科書（以下K）での配当学年とは異なる場合があります。

本資料は、漢字指導の円滑な移行を図るために、MとKの配当学年が異なる漢字を示しています。ご活用の際には、以下の点について、ご配慮をお願いいたします。

1. 次表（表1・表2）は、提出学年の移動により、「新出漢字」として学習する機会がなくなる漢字を示したものです。次表に掲げる漢字は、次の3種です。

- ① Kで2年、Mで1年に提出のもの。
- ② Kで3年、Mで1年に提出のもの。
- ③ Kで3年、Mで2年に提出のもの。

Mを第2学年から使い始める場合は、表1の①②の漢字について、また、Mを第3学年から使い始める場合は、表2の②③の漢字について、適宜ご指導ください。（例えば、表1の「椅」は、Kでは3年で「新出漢字」として提出していた漢字ですが、Mでは1年に提出しています。）

>> 「漢字の確認」(練習問題) はこちら
 

<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/common/07c-ikousochi>

2. 上記1.とは逆に、Kで既習の漢字がMでは「新出漢字」として提出されている場合があります。その場合は重複して学習することになります。ご指導の際はご注意ください。

表1 | 1年（教育出版）→2年（光村図書）

漢字	初出学年		漢字	初出学年		漢字	初出学年		漢字	初出学年		漢字	初出学年		漢字	初出学年	
	令3 出	令7 光		令3 出	令7 光		令3 出	令7 光		令3 出	令7 光		令3 出	令7 光		令3 出	令7 光
椅	3	1	乾	2	1	稽	2	1	遮	2	1	双	2	1	霸	3	1
彙	2	1	貫	3	1	擊	2	1	寿	2	1	喪	2	1	陪	3	1
維	2	1	棺	2	1	肩	2	1	襲	2	1	憎	3	1	媒	3	1
緯	2	1	還	3	1	堅	2	1	塾	3	1	贈	3	1	伯	3	1
陰	2	1	奇	2	1	嫌	2	1	瞬	2	1	即	2	1	泊	2	1
韻	2	1	祈	3	1	遣	3	1	遵	3	1	促	3	1	爆	3	1
越	2	1	輝	2	1	鍵	3	1	召	2	1	扞	2	1	箸	3	1
閑	3	1	擬	2	1	幻	2	1	昇	2	1	沢	3	1	鉢	2	1
援	2	1	吉	2	1	鼓	3	1	称	3	1	脱	2	1	髪	3	1
鉛	2	1	喫	2	1	巧	3	1	紹	2	1	彈	2	1	伐	2	1
縁	2	1	及	2	1	甲	2	1	粧	2	1	壇	2	1	帆	3	1
汚	2	1	拒	2	1	攻	2	1	拭	2	1	蓄	3	1	般	2	1
旺	3	1	扱	2	1	更	3	1	殖	3	1	駐	3	1	販	2	1
俺	2	1	距	2	1	肯	3	1	伸	2	1	挑	2	1	繁	3	1
苛	3	1	況	2	1	荒	2	1	芯	2	1	超	2	1	被	2	1
架	2	1	挟	3	1	絞	3	1	唇	3	1	徴	3	1	符	3	1
菓	2	1	恭	2	1	項	3	1	震	2	1	聴	3	1	腐	3	1
渦	3	1	脅	3	1	溝	2	1	尽	2	1	椎	3	1	譜	2	1
介	2	1	菌	3	1	酵	3	1	尋	3	1	墜	2	1	伏	2	1
蓋	2	1	琴	2	1	魂	3	1	衰	2	1	呈	2	1	払	3	1
核	2	1	緊	2	1	采	2	1	遂	2	1	偵	2	1	柄	2	1
隔	3	1	襟	2	1	歳	2	1	随	2	1	諦	2	1	壁	2	1
獲	3	1	駆	3	1	酢	2	1	裾	2	1	摘	2	1	抱	2	1
嚇	3	1	偶	2	1	搾	3	1	脊	3	1	徹	3	1	胞	2	1
掛	2	1	掘	3	1	錯	2	1	戚	2	1	怒	2	1	砲	2	1
括	2	1	繰	2	1	斬	3	1	跡	2	1	凍	2	1	坊	3	1
喝	2	1	茎	3	1	旨	2	1	箋	3	1	唐	3	1	房	3	1
渴	3	1	恵	2	1	刺	2	1	繕	2	1	筒	2	1	肪	2	1
甘	2	1	掲	2	1	施	2	1	疎	2	1	闘	3	1	冒	3	1
汗	2	1	溪	3	1	餌	2	1	訴	3	1	虹	2	1	紡	2	1
缶	2	1	継	2	1	軸	2	1	礎	2	1	悩	3	1	帽	3	1

表 1 | 1 年（教育出版）→ 2 年（光村図書）（続き）

漢字	初出学年	
	令3 出	令7 光
頰	2	1
撲	3	1
摩	2	1
磨	2	1
埋	2	1
抹	3	1
魅	2	1
娘	2	1
諭	3	1
揺	2	1
謡	3	1
絡	2	1
離	2	1
慮	2	1
了	2	1
涼	3	1
瞭	2	1
隣	2	1
涙	3	1
墨	2	1
戾	2	1
齡	2	1
劣	2	1
籠	2	1
惑	2	1

表 2 | 1・2 年（教育出版）→ 3 年（光村図書）

漢字	初出学年		漢字	初出学年		漢字	初出学年		漢字	初出学年		漢字	初出学年		漢字	初出学年	
	令3 出	令7 光		令3 出	令7 光		令3 出	令7 光		令3 出	令7 光		令3 出	令7 光		令3 出	令7 光
宛	3	2	詰	3	2	搾	3	1	煎	3	2	廷	3	2	慕	3	2
為	3	2	脚	3	2	斬	3	1	踐	3	2	滴	3	2	芳	3	2
椅	3	1	狂	3	2	伺	3	2	箋	3	1	哲	3	2	奉	3	2
逸	3	2	挟	3	1	摯	3	2	薦	3	2	徹	3	1	飽	3	2
閱	3	1	脅	3	1	諮	3	2	訴	3	1	唐	3	1	縫	3	2
旺	3	1	曉	3	2	執	3	2	遡	3	2	搭	3	2	坊	3	1
臆	3	2	凝	3	2	寂	3	2	爽	3	2	闕	3	1	房	3	1
佳	3	2	菌	3	1	珠	3	2	燥	3	2	寧	3	2	冒	3	1
苛	3	1	吟	3	2	趣	3	2	憎	3	1	悩	3	1	帽	3	1
渦	3	1	驅	3	1	呪	3	2	贈	3	1	霸	3	1	謀	3	2
餓	3	2	掘	3	1	塾	3	1	促	3	1	培	3	2	撲	3	1
楷	3	2	薫	3	2	准	3	2	俗	3	2	陪	3	1	勃	3	2
諧	3	2	茎	3	1	遵	3	1	怠	3	2	媒	3	1	奔	3	2
慨	3	2	溪	3	1	肖	3	2	滯	3	2	伯	3	1	翻	3	2
該	3	2	傾	3	2	尚	3	2	沢	3	1	爆	3	1	膜	3	2
殻	3	2	慶	3	2	称	3	1	拓	3	2	著	3	1	抹	3	1
隔	3	1	憩	3	2	涉	3	2	託	3	2	髮	3	1	霧	3	2
獲	3	1	遣	3	1	獎	3	2	諾	3	2	帆	3	1	諭	3	1
嚇	3	1	鍵	3	1	讓	3	2	嘆	3	2	汎	3	2	癒	3	2
穫	3	2	股	3	2	釀	3	2	致	3	2	搬	3	2	唯	3	2
渴	3	1	雇	3	2	殖	3	1	緻	3	2	煩	3	2	裕	3	2
冠	3	2	鼓	3	1	侵	3	2	蓄	3	1	繁	3	1	雄	3	2
貫	3	1	娛	3	2	唇	3	1	秩	3	2	漂	3	2	謡	3	1
勸	3	2	巧	3	1	診	3	2	抽	3	2	賓	3	2	欄	3	2
寬	3	2	更	3	1	尋	3	1	駐	3	1	符	3	1	涼	3	1
還	3	1	肯	3	1	炊	3	2	弔	3	2	腐	3	1	淚	3	1
祈	3	1	控	3	2	髓	3	2	跳	3	2	払	3	1	曆	3	2
軌	3	2	絞	3	1	凄	3	2	微	3	1	弊	3	2	廉	3	2
飢	3	2	項	3	1	脊	3	1	聴	3	1	餅	3	2	浪	3	2
鬼	3	2	酵	3	1	拙	3	2	陳	3	2	壁	3	2			
儀	3	2	魂	3	1	占	3	2	椎	3	1	舗	3	2			